

ほんわ館だより

令和8年1月発行
第160号

中山町立図書館
開館 10:00~19:00
休館日 1/1.2.3.5.13
19.26

1月の展示コーナー

★おすすめコーナー 『映画・ドラマ』

★児童書コーナー

- ・絵本コーナー 『あけましておめでとう』『だれがすき?』
- ・円形コーナー 『世界のことば』
- ・空中図書コーナー 『恐竜』
- ・小学生おすすめコーナー 『こども質問箱』

★2階掲示板

『今年こそ読みたい本』



★今月のおはなし会
1月17日(土)

11:00~11:30

場所: ほんわ館 多目的室

今年初めての
おはなし会だよ♪
お楽しみに♪♪



蔵書点検へのご協力ありがとうございました

昨年11月に行なった蔵書点検の結果、現在行方不明になっている本が19冊あります。図書館の本は個人のものではなく中山町の貴重な『財産』です。みんなが気持ちよく利用できるようにルールを守って大切にしましょう。



新春福袋

1月4日(日)10時の開館時には、雑誌の付録が入った福袋を用意してご来館をお待ちしております。何が入っているかお楽しみに!
※福袋はひとり1点、先着50名まで



新着 最近入った本を紹介します

※ここに紹介した他にも
たくさん入っています

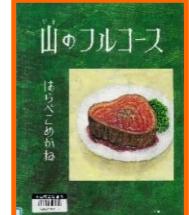
【児童書(えほん)】



◀『わすれ
ぼんたくん』
柴田 ケイコ
作//絵
PHP研究所



◀『お月さま
いつもありがとう』
メリッサ・スチュワート // 文
ジェシカ・ラン // 絵
まつむら ゆりこ // 訳
福音館書店



◀『山の
フルコース』
はらべこめがね
// 作
小学館

【郷土書】書名	編著者名	【児童書】書名	編著者名
お蚕様の先駆者たち	横尾 尚壽 // 著	果てしなきスカーレット	細田 守 // 作
【文芸書】書名	編著者名	命の宿題	今西 乃子 // 著
最後の一色(上・下)	和田 竜 // 著	お米はすごい!	柴田書店 // 編
シークレット・オブ・シークレツ(上・下)	ダン・ブラウン // 著	放課後ミステリクラブ8	知念 実希人 // 作
白露(警視庁強行犯係・樋口顕)	今野 敏 // 著	つかめ! 英語ダマン	シン テン // 作
ひとり旅日和 7	秋川 滉美 // 著	【教養書】書名	編著者名
たとえば孤独という名の嘘	誉田 哲也 // 著	小雪と発酵おばあちゃん	小雪 // 語り手
睡蓮	白石 一文 // 著	図解でわかる高齢者と終活	的場 隆之 // 著
とどけチャイコフスキー	中山 七里 // 著	日本貨幣カタログ2026	日本貨幣商協同組合 // 編
これはいつかのあなたとわたし	燃え殻 // 著	70歳からのスマホでAI	増田 由紀 // 著
暁星	湊 かなえ // 著	足腰復活 100年体操	巽 一郎 // 著
I(アイ)	道尾 秀介 // 著	ごちそうシネマ	くみた あきこ // 著
蜂蜜パイ	村上 春樹 // 著	豊臣秀長徹底解説	ミスター武士道 // 著
しっぽのカルテ	村山 由佳 // 著	凧の人 山野井妙子	柏 澄子 // 著



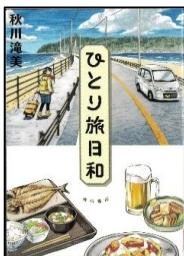
本の歳時記



読書で旅をする

新年明けましておめでとうございます。今年も中山町立図書館「ほんわ館」をよろしくお願ひいたします。さて、今年こそ旅に出たいけれど忙しくてなかなか時間がない、という方もいらっしゃるのではないかでしょうか？そんな時こそ読書で心の旅に出かけませんか？

本を開けばそこには見たことがない景色や出会いが待っているはずです。お気に入りの一冊を見つけて心の旅支度を始めてみましょう。



『ひとり旅日和1』

『ひとり旅日和 1』（秋川 滉美 // 著 KADOKAWA）

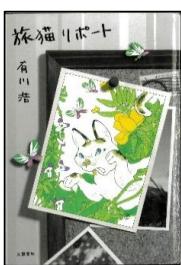
人見知りで消極的、仕事でも上司から怒られ落ち込む社会人2年生の主人公、日和。そんな時社長からストレス解消にとひとり旅を勧められます。最初はひとり旅なんて無理だと尻込みしていましたが、旅好きの同僚にも後押しされます日帰りできる熱海へ。そこから1泊、2泊とだんだん距離を伸ばしていくようになり、日和はひとり旅を通してたくましく成長していきます。ご当地グルメや観光名所などが描かれていて、自分も旅しているような気分になる1冊です。シリーズでお楽しみください♪



『灯台からの響き』

『灯台からの響き』（宮本 輝 // 著 集英社）

板橋の商店街で、父の代から続く中華そば屋「まきの」を営む康平は、一緒に店を切り盛りしてきた妻、蘭子を急病で失い、長い間休業していました。ある日、分厚い本に挟まっていた蘭子宛の古い葉書を見つけます。30年前の日付のその葉書は大学生からきたもので、どこかの岬らしいジグザグの線と、素っ気ない文章が添えられていました。なぜ妻はこれを大事にとっていたのか、なぜ康平の本に挟んでいたのか…蘭子の知らざる過去を追い、康平は灯台を巡る旅に出ることになります。この作品に出てくる灯台は、あたかも多くの人の人生の灯になっているかのようです。



『旅猫リポート』

『旅猫リポート』（有川 浩 // 著 文藝春秋）

この物語は野良猫ナナの目線から描かれています。交通事故に遭ったナナは、助けてくれた宮脇悟と暮らすようになりますが、5年後、悟はある事情によりナナを手放さなければならなくなります。二人は銀色のワゴンに乗って、引き取り手として信頼できる友人たちの元を巡る旅に出ます。美しい海、山…ナナは見たことがない風景ばかり。しかし旅を続いているうちに、ナナは悟の悲しい過去を知っていくことになり…「自分にとっての幸せとは何か？」と考えた時に自身の人生を見つめ直し、自分の周りにいる人を大切に思う気持ちが自然と芽生えるような、切なくも温かい作品です。

ほんわ館で読まれています

『イノセンス』

誉田哲也//著 幻冬舎



音楽活動に行き詰まったシンガーソングライターの立石梨紅は、数年前に業界から消えた人気ロックバンドのギタリスト・伊丹孔善の楽曲と出会う。消息不明な彼の行方を捜すが…。

『さよならジャバウォック』

伊坂幸太郎//著 双葉社



結婚直後の妊娠と夫の転勤。その頃から夫は別人のように冷たくなった。そして今、自宅マンションの浴室で夫が倒れている。そこに、大学時代のサークルの後輩・桂凍朗が訪ねてきて…。

『一橋桐子<79>の相談日記』

原田ひ香//著 徳間書店



老朽化して誰が住んでいるかもわからない猿山団地の管理人として白羽の矢が立ったのがクトオ・ワークスの清掃部チーフとなった一橋桐子。名簿づくりから始めてみると、次々と“住人の闇”が見えてきて…。

『まろ丸伊勢参り』

畠中 恵//著 KADOKAWA



両替商の三男坊・九郎の姪の結婚の大坂の大店の跡取りになる養子話が舞い込む。なぜか伊勢まで結を連れて来て欲しいと言われ、九郎は仔犬のまろ丸をお供に、結を伊勢まで送り届けることに…。